

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1970101174		
法人名	社会福祉法人日新会		
事業所名	グループホーム あかし		
所在地	甲府市上町2473		
自己評価作成日	平成23年1月11日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigo-kouhyo-yamanashi.jp/kaigosip/Top.do">http://www.kaigo-kouhyo-yamanashi.jp/kaigosip/Top.do</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	山梨県社会福祉協議会		
所在地	甲府市北新1-2-12		
訪問調査日	平成23年2月25日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者一人ひとりが有する力を最大限に活かし、役割を持って生活できるよう支援している。また、入居者の担当職員が、身体・精神的理解者になり本人や家族をバックアップしている。毎日行われるカンファレンスでは気付いた点を話し合い、統一した介護やレベルアップを目指している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

郊外の田園風景の広がる閑静な場所に位置しており、ホームは別棟にそれぞれ1ユニットずつあるが、どちらも明るく広々とした造りとなっている。職員は、「その人にとっての自立とは何か」を常に考えており、仰向けのままで、状態をわずかに起す体勢をとると自力で移動できる利用者に対して、お尻に専用のクッションで保護したり、床を清潔に保つなど環境を整え、本人が行きたい所に行ける状況を作るなど、一人ひとりの力を活かす支援を工夫・努力を重ねている。職員は利用者の日常に寄り添うように支援しており、その延長線上に看取りがあると意識付けがなされている。また、職員体制の充実がきめ細かいケアにつながり、外国人研修生の受け入れにもつながっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

事業所名 グループホームあかし

[セル内の改行は、(Altキー)+ (

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名( 杏番館 )	ユニット名( 貳番館 )	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「明るく・楽しく・自分らしく・地域とともに歩む」を基本理念に掲げ、毎朝三唱している。	「明るく・楽しく・自分らしく・地域とともに歩む」を基本理念に掲げ、毎朝三唱している。	本人の力を発揮できるための支援を、暮らしの中で行うことを大切にしている。「明るく・楽しく・自分らしく・地域と共に生きる」を基本理念に掲げ、職員・管理者が理念を共有し、新人職員には毎日の実践を通して理念を管理者から伝えられている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩や行事を通して交流を図っている。また、回覧板でホームの様子を知ってもらっている。	散歩や行事を通して交流を図っている。また、回覧板でホームの様子を知ってもらっている。	自治会に加入し、月に1回ホームの様子と認知症の対応の仕方などの便りを地域に発信している。また、地域の行事に参加したり散歩時に会話の機会を持つ等の努力をしている。地域の小学校・幼稚園の訪問が各々年2回あり、交流を深めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	回覧板に「認知症の対応」を書き、理解してもらっている。	回覧板に「認知症の対応」を書き、理解してもらっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	入居者の状況・事業報告を通し、意見交換を行っている。	入居者の状況・事業報告を通し、意見交換を行っている。	事業所からの情報提供や、利用者家族の要望、地域からの意見や要望が出されている。地域から火災に対する意見が出された。その中から課題が明らかになり、話し合った結果、スプリンクラーの取り付けに結びついた。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	新しい事業の相談をしている。	グループホームに住所を移す入居者の相談をしている。	甲府市介護ふれあいサポーターを受け入れ、週1回2時間ほど活動してもらっている。事業所の現状や取り組みを伝えたり、利用者の現住所の問題を相談するなど積極的な情報提供に努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束排除宣言を掲げ、身体拘束は行っていない。	身体拘束排除宣言を掲げ、身体拘束は行っていない。	玄関の鍵は日中は施錠していない。何が身体拘束であるかを職員はしっかり理解しており、利用者の安全を確保しながら抑圧しない支援方法を工夫している。スピーチロックはその都度、上司が指導したり、職員会議でも問題点を検討し合っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止についての研修を行い、虐待を行わない。	高齢者虐待防止についての研修を行い、虐待を行わない。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修を行っている。1名が成年後見人制度を利用している。	研修を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名( 壹番館 )	ユニット名( 貳番館 )	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約をする際、説明を行い同意を得ている。	契約をする際、説明を行い同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族から要望を聞く機会を設けている。	家族から要望を聞く機会を設けている。	1年に1度、家族アンケートを実施し、月1回発行の「あかし便り」には担当者が利用者の様子を記入している。また、家族の来訪時には、家族の意見・要望を聞き入居者ノートに記入している。これを館長・管理者へつなぎ柔軟に対応している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議に於いて、業務改善等の意見を聞いている。また、反映できることはしている。	職員会議に於いて、業務改善等の意見を聞いている。また、反映できることはしている。	毎日、職員ミーティングを行いその日の気づきや業務についての意見を出し合っている。就業時間内に仕事が終わらないという職員の意見に業務スケジュールの見直しや、職員が交互に記録する時間を取るよう業務見直しが図られた。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	実務・勤務状況により手当てが出ている。また、ボーナスも職能給にしている。	実務・勤務状況により手当てが出ている。また、ボーナスも職能給にしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修を、積極的に受けられている。	法人内外の研修を、積極的に受けられている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会の研修に出席し、交流を図っている。	グループホーム協会の研修に出席し、交流を図っている。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に本人と面談し、意向を聞いている。	入居前に本人と面談し、意向を聞いている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に家族と面談し、意向を聞いている。	入居前に家族と面談し、意向を聞いている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	在宅の場合、ケアマネジャーからも情報収集している。	在宅の場合、ケアマネジャーからも情報収集している。		

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名( 壹番館 )	ユニット名( 貳番館 )	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支えあう関係職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	できる力の把握に努め、教えてもらう機会を作っている。	できる力の把握に努め、教えてもらう機会を作っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	行事に出席してもらったり、面会時には情報を共有し、家族しかできない事は、行ってもらっている。	行事に出席してもらったり、面会時には情報を共有し、家族しかできない事は、行ってもらっている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	随時面会に応じている。	デイサービスの利用者が遊びに来れる環境を作っている。	これまで過ごしてきた生活背景を知るために私の暮らし方シートを記録し、希望の把握に努めている。馴染みの美容院への外出・帰宅の支援や、かつて通っていたデイサービスでの友人の来訪など、個別の支援を行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	仲が良い入居者の把握し、テーブルを同じにしている。	仲が良い入居者の把握し、テーブルを同じにしている。		
22		○関係を断ち切らない取組みサービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他施設に行った元入居者に会いに行っている。	他施設に行った元入居者に会いに行っている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>						
23	(9)	○思いや意向の把握一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	担当職員を決め、本人の希望を聞いている。	担当職員を決め、本人の希望を聞いている。	担当職員が決まっているので、きめ細かく希望・意向を汲み取ることが出来る。帰宅願望の対応でも家族に働きかけ、帰宅の支援をする場合もあるが、帰宅がかえって本人の精神的負担となる場合もあり、日常を知る担当者と共に皆で最良の方法を検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に家族や本人から生活歴等を聞き、把握している。	入居時に家族や本人から生活歴等を聞き、把握している。		
25		○暮らしの現状の把握一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居時に家族や本人から一日の過ごし方等を聞き、把握している。	入居時に家族や本人から一日の過ごし方等を聞き、把握している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人・家族の意見を取り入れ、介護計画を作成している。	本人・家族の意見を取り入れ、介護計画を作成している。	毎日、気づきを記録しカンファレンスを持っている。月毎のケア記録を、3か月1回アセスメント・評価して介護計画を作成している。職員・本人・家族の意見はもとより必要な場合は医師の意見ももらい、それぞれの意見を反映した計画を作成している。	

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名( 壹番館 )	ユニット名( 貳番館 )	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケア記録に記入し、共有している。	ケア記録に記入し、共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	歯科、病院受診に同行している。	訪問マッサージを取り入れている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	買い物支援を継続して行っている。	入居前から行っている美容院へ継続して通えるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	嘱託医が週2回、回診にきている。	嘱託医が週2回、回診にきている。また、他病院を受診する際は情報提供をしている。	入居時に本人・家族の同意を得て嘱託医が利用者全員の主治医となっている。これは全員がターミナルケアを希望していることにも関係している。年2回の健康診断、週2回の回診があり、歯科・皮膚科などの受診は家族対応で情報は共有している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	何かあれば嘱託医に連絡し、状況に応じ看護師が対応してくれる。	何かあれば嘱託医に連絡し、状況に応じ看護師が対応してくれる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際、情報提供を行っている。	入院した際、情報提供を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りについて説明を行っている。	看取りについて説明を行っている。	看取りの指針があり、勉強会も開いている。今まで7～8人の看取りを経験しており、利用者が重度化した場合の職員の心構えは備わっている。また、24時間対応してもらえる嘱託医の存在は大きく、本人・家族に寄り添いながらターミナルケアに職員全員で取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急法の研修を受けている。	救急法の研修を受けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	研修を行っている。	研修を行っている。	法人全体での訓練を1回、ホームのみでの訓練を1回行い、利用者と避難誘導経路の確認をしている。また、地震を想定し備蓄品の試食・炊き出しの訓練も行った。地域の消防団の組織はなく、近隣の住宅もまばらで協力体制はまだ整っていない。	昼夜を問わず利用者が安全に避難できるためにも、夜間を想定した訓練を行い、全職員が夜間の勤務体制の中であっても、利用者を安全に避難誘導できる方法を体験的に身につけることを期待したい。

#### IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名( 壹番館 )	ユニット名( 貳番館 )	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーについての研修を行い、プライバシー保護に努めている。	プライバシーについての研修を行い、プライバシー保護に努めている。	記録類は事務所内で記入するなど個人情報の保護に留意している。「トイレ誘導の際もトイレと言う言葉は使わない」、「ズボンを下げ過ぎない」、「入浴時もタオルで覆う」など尊厳や羞恥心への細心の配慮がなされている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	様々な場面で、話しを聞く機会を多くしている。	様々な場面で、話しを聞く機会を多くしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者と話しをしながら支援している。	食事時間が遅い入居者には、いつでも食事ができるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	行事等で化粧をしたり、洋服も本人に選んでもらっている。	近所の美容院でパーマをかけたり、毛染めをして本人のおしゃれを支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理する人・盛り付ける人・片付ける人、できる力を把握しやってもらっている。	調理する人・盛り付ける人・片付ける人、できる力を把握しやってもらっている。	利用者・職員が共に買い物や、食事に関する一連の作業を利用者一人ひとりの力を活かし、行っている。職員も同じ物を一緒に食べながら利用者との関わりを大切に楽しく食事をしている。献立は管理栄養士の立てた献立に基づいて調理している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事チェック表で把握している。	食事チェック表で把握している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行っている。	毎食後、口腔ケアを行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを把握し、トイレ誘導を行っている。	排泄パターンを把握し、トイレ誘導を行っている。	全員トイレ誘導しているが、排泄パターンを把握しており、失敗のケースはほとんど見られない。夜間もオムツの使用はせずタイミングを見計らって、起したり、声かけをするなど個別の排泄支援をし、自立に向け取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	ヨーグルトや牛乳等、薬以外でも便秘予防をしている。	ヨーグルトや牛乳等、薬以外でも便秘予防をしている。		

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名( 壹番館 )	ユニット名( 貳番館 )	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	便失禁時には、入浴を行っている。	本人に聞く機会を作っている。	1日おきの入浴支援体制であるが、本人の意向に沿い支援されている。衣類の着脱の際は羞恥心への配慮もなされ、タオルで覆うなどの方法をとっている。入浴を拒否する利用者には、スタッフを替えたり、管理者から促すなど工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	傾眠がある時は、横になってもらっている。	眠れない入居者の横で添い寝をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	誰が何の薬を服薬しているか、把握している。	誰が何の薬を服薬しているか、把握している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	金魚にえさをやる係り等、それぞれ役割をもって生活している。	ビールの飲酒や喫煙を支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出の希望があれば、家族に連絡し支援している。	外出の希望があれば、職員と外出している。	行きつけの美容院へ車イス介助で外出する利用者もいる。また、利用者3~4人と職員が散歩を兼ね、食料・日用品の買い物に行くことが日課となっている。月に1回、双方のユニットとの交流会を持ち、月2回お弁当を手作りして、四季折々の花見・ドライブを楽しむなどの支援がされている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自分でお金を持っている入居者がいる。買い物時に好きな物を購入し支払いをしている。	自分でお金を持っている入居者がいる。買い物時に好きな物を購入し支払いをしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族に連絡をして欲しい時に連絡している。	携帯電話を持っている入居者がいる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	温湿度計で不快がないよう管理している。また、清潔にも心がけている。	温湿度計で不快がないよう管理している。また、清潔にも心がけている。	明るく、温度・湿度も配慮され清潔感に溢れている。自力での移動動作は這う・仰向けという利用者達がいることもあり、床は念入りに清掃されている。居間部分のウッドデッキは、利用者が外気に触れたり、洗濯物を干したり、喫煙場所にしたりと活用されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う入居者同士を同じテーブルにしている。	テーブル・ソファ・こたつがあり、自由に過している。		

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名( 壹番館 )	ユニット名( 貳番館 )	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ペットカバーやカーテン、タンスを持ってきてもらっている。	全て自宅から持ってきてもらっている。	利用者一人ひとりのプライバシーが守られ、落ち着ける場所となっている。それぞれの好みを活かした空間が作られており、馴染みの家具、写真、感謝状など思い出の品々が飾られている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室の入り口やトイレが分かるよう、字で書いてある。	居室の入り口やトイレが分かるよう、字で書いてある。		